ラ　フォレ　セ　ラ　ヴィ　―森こそ命―

La Forêt, C'est la Vie !

ブルキナファソでは、地面の乾燥化が進み、砂嵐が起こりやすくなっています。砂埃だけではなく、地表に転がっている家畜糞も巻き上げてしまうため、衛生上の問題も引き起こします。

激しく揺らぐアフリカの気候 ― 新たな事態への対応

地球温暖化が進む中、アフリカでは、数年来、干ばつに加えて、大雨・洪水や大型サイクロン（台風）が頻発するなど、気候が激しく揺らいでいる。2007 年北半球夏の 7 ～ 9 月には、西・中・東部アフリカの 24 ヶ国にわたる広大な地域で、未曾有の大雨・洪水が多発した。直接の被災者だけでも 200 万人を数え、数百万もの人びとが食料不足と水媒介感染症（急性水様下痢・コレラ・マラリア・リフトバレー熱など）流行の脅威にさらされた。

2008 年 2 月中旬現在、南半球雨季の半ばにある南部アフリカのモザンビーク・ジンバブエ・マラウイ・ザンビア 4 ヶ国では、すでに約 50 万人が大雨・洪水に直接被災している。国連人道問題調整事務所（OCHA）は、雨季末の 5 月まで異常降雨が続けば、最悪シナリオ（サイクロンの影響も含む）で、280 万人もの大量被災者が出る可能性があると予測し、「南部アフリカ地域洪水―備えと対応計画」（2008 年 2 月）という、事前対応を呼びかける異例のアピールを出している。従来の事後救援中心の取り組みからみると、画期的な対応行動であり、アフリカ全域へ早急に拡げてもらいたいものである。

しかし、コミュニティ・レベルの人びとの生命と生産の場を守るためには、こうした広域的な事前対応だけでは不十分である。気象観測モニタリング－予知・予測－早期警戒情報発信・伝達－災害時の緊急対策（水・食料・医薬品など）－災害後の一時対策（避難所や水媒介感染症対策等を含む）－復旧など、国－地方－現場コミュニティへとつながる一連の多段階的・統合的減災対応行動が必要とされる。環境 NGO としても、こうした一連の対応行動の中で、その果たすべき役割を模索しつつ、コミュニティ・レベルの行動を始めるべき時であろう。

（緑のサヘル顧問　東京都立大学名誉教授　門村　浩）

２００８年を迎えて

緑のサヘル　代表理事　岡本敏樹

立春を過ぎましたが、まだ寒い日が続いています。現地でも今年は寒く、明け方の気温が 10 度を下回る日がありました。気温差が大きいので、寒さがいっそう身に沁みます。

初めてアフリカの国に赴任したとき、乾季の暑さの中、焼け付くようなアスファルトを平気で裸足のまま歩いていく現地の人たちの姿に驚いたものでしたが、それ以上に、気温が 20 度くらいまで下がる冬季と呼ばれている 12 月から 2 月にかけて、現地の人が寒いと言ってダウンジャケットや皮ジャンを羽織っている姿には、違和感と同時におかしくなったものでした。それが今では、20 度を下回ると彼らと同じようになんとなく肌寒く感じ、重ね着をするようになっています。これもある意味で現地に適応した結果と言えるのでしょうか。

さて、ケニアで大統領選挙を契機とした混乱が生じ、深刻な対立の様相があらわになってきたことは耳目に新しいところですが、1 月末から急速に展開したチャド共和国の内戦状態についても、日本の新聞紙上で取り上げられたこともあり、ご存知の方々も多いと思います。この内戦は複数の要因が絡み合い、2005 年から一進一退を続けていた緊張状態が一気に噴出したかのような激しさでした。1992 年から活動を続けている国の混乱を目にするのは、なんとも暗澹たる思いです。

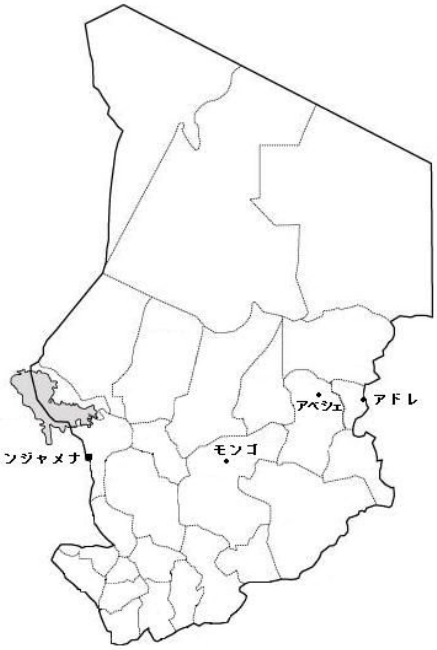
見解や立場の相違は、突き詰めていけば関係、特に人間関係の問題になってくると思います。それにはいろいろな対立や不和がつき物ですが、その状態を放置するのではなく、わかりあう方向に働きかけていかなければと思います。それはアフリカの国家同士や民族の間についてだけはなく、日本がこのような国々と関係を持とうとするときにも当てはまります。

今年の 5 月には、横浜で TICAD IV（第 4 回アフリカ開発会議）が開催されます。議題としてはもちろん今後のアフリカ諸国への開発支援が中心になるのですが、それ以前に、アフリカ諸国の現実と向き合って生活している人々のことやその生活について知ろうという積極的な気持ちが必要なのではないでしょうか。このような国際会議の場では、得てして支援する側とされる側という、前提とも言える立場から話し合われることが多いのですが、例え国家間の協力であろうと民間レベルの活動であろうと、相互理解なくしては立ち行きません。そのためには、このような前提を取り払えるような姿勢が必要ですし、なにより生活の基本的な要素である「食べる、飲む、働く、お金」に注目しなければならないと思います。

TICAD IV では、各国の政府を代表する方々によって、もっと大きくかつ幅広い視点から政策的な意見交換が行われるのですが、それぞれの国家には人々が生活しているのですから、政治的な議論に終始するのではなく、それぞれの国家間の相互理解に繋がるような話し合いが出来ればと願っています。そして、背後にあるそれぞれの国民とその生活に繋がっていくものであってほしいと思います。

しかし現地には、私たちにとっても手の及ばない、どうしようもない現実があります。そのような現実を直視しながら、それを理解しようとすることも、必要だと思います。すぐには無理だとしても時間をかけることで、お互いの理解が変わっていくと思うからです。今年が、アフリカの国々との相互理解を図る新たな一歩となればと思っています。

チャド共和国の内戦について



● 反政府勢力による攻撃 ●

「緑のサヘル」の活動国の一つであるチャド共和国では、2006 年４月に首都ンジャメナの近郊で政府軍と反政府勢力による戦闘が行われる等、政情の不安が続いていました。2008 年２月１日、ンジャメナ近郊において政府軍と反政府勢力３派、計 2,000 名との間に戦闘が発生、翌２日には反政府勢力が市内に侵攻して大統領府を取り囲む等、一時は現政権が倒れる可能性が大きくなりました。

● 政府軍の反撃 ●

これに対して政府軍はヘリコプターや戦車で反撃、３日夜には反政府勢力をンジャメナ北部に退却させました。この一連の動きに、旧宗主国であるフランスはいち早く現政権の支持を表明、４日には国連安保理が反政府側を強く非難しました。こうした国際社会の声を考慮してか、その後反政府勢力は戦闘を行うことなく東南に移動、チャド中部の町モンゴ近辺を経由して、現在はスーダン国境近辺に駐屯しています。

● 戦闘による被害 ●

この動乱は民間にも多くの被害をもたらしました。現地の国際赤十字は「巻き添えによる死者 160 人、負傷者約 1,000 人」と発表しています。難民となって隣国カメルーンに逃れた市民は 20,000 人を越え、700 人以上の在留外国人がフランス軍機によって国外に緊急退避をしています。（尚、チャドには８名の日本人シスターがいますが、皆さんのご無事が確認されています）

● 今後の見通し ●

反政府勢力は首都からの移動を、弾薬・食糧の補給のためとし、「すぐに活動を再開する」しかし「停戦に応じる準備はある」と発表しています。これに対してイドリス・デビ現大統領は、６日に勝利宣言を出し、14 日には反政府勢力掃討を目的に、全土に非常事態を宣言、夜間外出禁止令を発令し、家宅捜索と民間・公共報道機関の統制を許可しました。現在、首都ンジャメナには、一時カメルーンに逃れていた市民が帰還し、日常生活が戻りつつあります。国際社会による支持は現政権の士気を高め、反政府勢力の勢いを挫くでしょう。しかし、国民の間に現政権に対する不満が蓄積しているのも確かで、隣国スーダンとの関係悪化と併せて、状況はまだまだ予断を許しません。

●「チャド共和国」と「緑のサヘル」●

チャドは「緑のサヘル」にとって最初の活動国であり、現地での活動を引き継いでくれた多くの仲間が暮らす国です。私たちは今もこうした友人たちへの支援を続けていますが、国際電話は２月 18 日現在も不通が続いており、避難先のカメルーンから連絡してくれた旧スタッフを除けば、１名の安否も確認できていません。平和が戻ったチャドに帰り、かつてのように仲間たちと共に汗を流すことが出来る日々が、１日でも早く訪れることを願って止みません。

活動報告　1

ブルキナファソ

＜タカバングゥ地域技術移転事業＞

追跡調査をしている 4 つの住民グループ（荒廃地回復、畜耕、裁縫、石鹸作製）の活動結果を評価するために、11 月にワークショップを行いました。各グループとも、山あり谷ありの 1 年間でしたが、それぞれ工夫を凝らしました。

荒廃地回復グループでは、穀物の収穫は期待したほどではなかったのですが、2005 年に播種した樹木の成長が良かったため、グループにとってはうれしい結果になりました。

畜耕グループは土地を変えたことが功を奏し、作業上の適地を得たのですが、途中で蓄えていた牛の飼料が尽きてしまい、全てを畜力で耕すことは出来ませんでした。しかし、耕起に要する日数の短縮が実現できました。

裁縫グループでは、雨季の間は畑作業で忙しく、裁縫活動は出来なかったのですが、自分たちで共同菜園を作り、ゴマを栽培しました。このゴマは販売され、グループの資金になります。

石鹸作製グループは、材料であるカリテバターの価格高騰と品不足により活動が停滞しましたが、別の材料で代用することによって石鹸を作製しました。

荒廃地回復グループの技術は、村内でも注目され普及が進んでいます。他のグループの技術は、村の生活にとって便利であり、役に立つものであるため、多くの住民が利用しています。

石鹸作製グループが現地の木の実を利用して作った石鹸。

＜バム県　小学校緑化支援＞

昨年の雨季に植えられた苗木が、元気に成長しています。家畜の食害防止のために設置した柵の強度が不足していたため、食べられてしまった苗木がありましたが、小学校によって補植が行われたり、自分たちで工夫した柵を新たに設置したりして対応していました。生徒たちによって水遣りが続けられていますが、乾季も厳しさを増し始める時期になってきたので水源が心配です。

3 月に、環境省や教育省、AJPEE（現地の協力団体）とともに植林結果の審査を行い、4 月に成績発表会をする予定になっています。どの小学校でも優勝を目指して取り組んでいるので、接戦となっています。本格的な乾季を迎えるこれからの頑張りに注目したいと思います。

今年は、現在の 10 校へのフォローアップを続けながら、新たに 10 校を加える予定にしています。多くの小学校が希望しているのですが、利用できる水源の状況や PTA に積極的な協力が期待できるかどうかなどを考慮し、決めたいと考えています。

サンルゴ小学校に植えられた苗木の様子。

活動報告　２

国内活動　（Part1）

募金活動のご協力

○ 西谷中学校生徒会の皆さんによる募金活動

横浜市立西谷中学校の生徒会の皆さんが、「緑のサヘル」のために、1 月 18 日から 25 日にかけて相鉄線沿線の駅前やショッピングセンター、学校内で募金活動をしてくださり、80,033 円のご寄付を頂きました。

特に 23 日は、雪の降る中、現地の様子を写したパネルを掲げ、元気な声を出して、道行く人たちに募金を呼びかけてくれていた様子が印象的でした。この様子は地元のケーブルテレビも注目し、募金の様子が紹介されました。生徒会の皆さん、どうもありがとうございました。

鶴ヶ峰駅の広場で募金を行う生徒会の生徒たち。

イベントへの参加

○ TOKYO　BOUZ　COLLECTION（東京ボーズコレクション）＊ 2007 年 12 月 15 日土曜日

東京の築地本願寺で、様々な宗派のお坊さんが一堂に会し平和を祈るというイベントが開催されました。

イベントの後援団体である「アーユス仏教国際協力ネットワーク」からのお誘いを受けて、テーマのひとつである「アフリカへの支援」というスローガンのもと、出店しました。「緑のサヘル」のカレンダーにちなんで、ダンボールに思い思いの図柄を描いて張り合わせるという企画を行いました。若いお坊さんも時折お手伝いに参加してくださり、アフリカの現状についてもっと知りたいというご意見もいただきました。

カレンダーの中の壁を参考にして描かれた色々な図柄。

○ 表参道 JACK（表参道ジャック）＊2007 年 11 月 26 日月曜日

緑のサヘルのパネルに見入る通行者。

東京の渋谷にある国連大学ビル前の広場にて、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の呼びかけにより、難民・人道支援に携わる NGO などによる活動紹介イベントが行われました。

「緑のサヘル」も出店し、パネルを使って現地の実情を伝え、実際の活動の様子を行き交う人たちに説明しました。

また、ボランティアの学生たちが列を組み、支援活動の重要性をアピールしながら行進した他、広場とは別に、青山通りから表参道にわたる服飾店や商店街では、イベントの宣伝や UNHCR をはじめとする人道支援団体の活動紹介などが行われました。

活動報告　２

国内活動　（Part２）

各地で講演＆講義

昨年 10 月末から今年１月にかけて、「緑のサヘル」は多くの皆さんとお会いする機会に恵まれました。講演や講義を主催して下さった皆さん、事務局に来て下さった皆さん、お話を聞いていただき本当にありがとうございました。(写真はブルキナファソ調整員の竹越による南アルプス市立八田中学校での講演)

月　日	目的等	主催・訪問先等	演　者
10 月 25 日	事務所来訪	鳩ヶ谷市立里中学校　（埼玉）	岡本（代表理事）
31 日	〃	上野原市立平和中学校（山梨）	〃
11 月　1 日	〃	盛岡市立下橋中学校　（岩手）	〃
12 日	講演	盛岡市立桜城小学校　（岩手）	菅川（事務局長）
13 日	学習会	岩手県教職員組合下閉伊支部	〃
13・14 日	講演	宮古市立第一中学校　（岩手）	〃
15 日	〃	盛岡市立下橋中学校　（岩手）	〃
17・18 日	団体・活動紹介	岩手県教職員組合環境部会	〃
19 日	講義	岩手県立大学	〃
22 日	事務所来訪	戸田市立芦原小学校	岡本
12 月 10 日	講演	（特活）いわて NPO センター	菅川
7 ・14・21 日	講義	埼玉大学	岡本
1 月 25 日	〃	南アルプス市立八田中学校（山梨）	竹越（現地調整員）

3NGO 合同パネル討論会開催！

去る 2007 年 12 月、「いま、アフリカとつながる」と題された２つのパネル討論会が開催されました。アフリカを舞台に活動を続けている日本の３つの NGO より、村上一枝さん（「西アフリカ農村自立協力会」代表)、柳沢由実子さん（「FGM 廃絶を支援する女たちの会」創設者)、菅川拓也（「緑のサヘル」事務局長）が参加し、菊池滋夫さん（明星大学教授）のコーディネートの下、それぞれの現場からの報告やアフリカの関わる様々な問題の提起がなされました。

多くの方々が会場に足を運んで下さいました（横浜）

この討論会は、２日が横浜市の「かながわ県民センター」(主催：神奈川区国際協力ネットワーク、共催：横浜市神奈川区役所、後援：横浜市国際交流協会・横浜市市民活動支援センター)、９日が盛岡市の「岩手県民情報交流センター」(主催：岩手県国際交流協会）において行われましたが、いずれも会場を埋めた参加者より「あっという間に時間が過ぎた」という感想が寄せられるなど、内容盛りだくさんの充実したものとなりました。

右から村上さん、柳沢さん、菅川（盛岡）

ありがとうございました

【　新規会員の皆様　】

小原　喜代美／源　実恵／丸山　タミエ

【　継続会員のみなさま　】

内藤　篤／杉本　和／高橋　聖子／手嶋　康／中島　恵美／滝川　なおみ／秋山　美知子／加藤　和雄／遠藤　保子
今野　進・今野　和子／佐賀　明子／小枝　清子／国岡　裕子／鶴崎　恒雄／内藤　秀誠／内藤　真子／門村　浩
オハヨー乳業株式会社　代表取締役　野津　香／永田　ひろ子／枝川　充志／高橋　まり子／鈴木　幸子
瀬戸　栄一／瀬戸　泰三／瀬戸　進一／瀬戸　義子／瀬戸　謙二／猪股　満希子／西村　歩
梅田　暢子／佐々木　順平／大久保　久美子　　他　匿名をご希望の方　2名

【　ご寄付を頂きました。ありがとうございました。　】

井上　茂／藤田　知幸／北越経営研修所　研修生一同・帯瀬　光子／中村　陽子／井上　比呂志／田中　薫
竹中　和子／手嶋　康／援助修道会／日本聖公会大阪教区婦人会／中島　恵美／滝川　なおみ
西宮聖ペテロ教会／西村　豊子／丹　邦子／山田　静子／岡田　光悦／武田　てるよ／小林　伸張／佐々木　修一
小島　訓子・小島　知子／幼きイエズス修道会／青山　初穂／曽山　卓司／須藤　きい／亘　友子
宮本　誠／大原　緑／諏訪　弘美／小池　昌子／中嶋　敬治／フェリス女学院　中高生徒会／田中　清枝
株式会社　INAX　119名／水真　陽一／新潟県小千谷国際交流協議会　会長　小池　和明／大阪信愛女学院小学校
宮本　秀子／井上　比呂志／永井　直子／真砂　友子／株式会社東京アグリビジネス　代表取締役　大橋　邦雄
TOKYO BOUZ COLLECTION 実行委員会／榎本　みつ枝／松岡　亜湖／髙木　眞味子／富士ウェルテック株式会社
石黒　勇平／山根　貞夫／山野上　素充／松本　幸／大段　嘉宏／大段　紀代子／兼平　圭子／赤山　美苗／
安生　弘子／大段　るみ子／和田　浩・和田　治／高　嬉在／東海林　茂子／森田　和吉／富谷　晋
鈴木　潤／TESS代表　髙松　千枝子／横浜市立西谷中学校／西村　歩／宮田　春夫／三浦　敦／小田島みゆき
杉本　敏行／笹川　憲子／森崎　ひとみ／石川　麻衣／柳平　和子／齋藤　政宏／齋藤　せい子／西山　鐵之助
三田竹若　別館／石山　俊／岩村　覚三／江刺　和弘／南　郁子　　他　匿名をご希望の方　23名

【　助成団体からの助成金　】

財団法人　国際緑化推進センター　／　財団法人　国際農林業協働組合

(敬称略、入金順)

上記は2007年11月1日から2008年1月31日までにご支援頂いた方のご芳名であり、2008年2月1日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。また、ご芳名の掲載につきましては、お名前の公開を承諾された方のみを掲載させて頂いています。あらかじめご了承下さい。

❄❄❄❄掲載されました❄❄❄❄

- 株式会社帝国書院：高等学校現代社会資料集*『アクセス現代社会』*
- 株式会社日本能率協会ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｾﾝﾀｰ：東京商工会議所編著
  『改訂版　環境社会検定（eco検定）公式テキスト』

お　し　ら　せ

書き損じ葉書で国際協力しませんか？

書き損じ葉書、使わなかった古い年賀状などを大募集しております。1枚でもかまいません。どうぞ緑のサヘルにご寄付下さい。いただいた葉書は、新品や切手と交換もしくは換金し、活動に利用させていただきます。

２００８年　緑のサヘル　オリジナルカレンダー

一冊の売り上げ（￥1,000）で、苗木を30本購入することができます。現在行われているブルキナファソでの学校内植林事業をはじめ、売り上げの全ては緑のサヘルの活動に使用されます。

書店での販売はおかげさまをもちまして終了となりましたが、インターネットやお電話でのお求めは４月下旬頃まで受け付けております。ご希望の方は、お気軽に下記事務局メールアドレス及び電話番号に直接お問い合わせください。

【目次】

１‥‥表紙
２‥　08年度ご挨拶
３‥‥ﾁｬﾄﾞ情勢報告
４‥‥国外活動報告（ﾌﾞﾙｷﾅﾌｧｿ）
５‥‥国内活動報告①
６‥‥国内活動報告②
７‥‥ありがとう
８‥‥お知らせ

＜編集後記＞

●今年になってアフリカの複数の国で発生した争いや事件が、さかんにメディアで報道されるようになった気がします。アフリカ開発会議を意識してのことなのでしょうが、このようなビッグイベントがなければ、それでも淡白に扱われたのではないかと思います。（岡本）　●チャドの内戦勃発の報に暗澹たる思いです。10年以上の付き合いになる友人や知人、そしてかつての現地スタッフ達の顔が頭から離れません。（菅川）　●今年もサハラから熱風が吹き付ける時期になりました。空気がカラカラに乾燥しているため、静電気がバチバチ。日本では考えられませんが、握手した時に火花が散ってお互いにびっくりなんてことも…。（町）　●「便利で早い」は豊かさの一つの指標であることは言うまでもありません。一方、木を植え育てることは、なんと時間がかかることかと、前者と比べてしみじみ思います。（佐藤）

ご贈答品・お歳暮にどうぞ

ハヶ岳農場の特産品

ハヶ岳中央農業実践大学校の特産品がさらに充実しました。これまでの手作りチーズとアイスクリームに加えて、チーズケーキ、カレー、ソーセージなどハヶ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの10セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表にございます。大学校のご厚意により、お求めごとに定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】　郵便振替用紙に**ご依頼人様**と**お届け先様**のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振り込みください。

００１４０－９－５０４２５「緑のサヘル」

お振り込みから到着まで１０日程かかります。

		関東 信越 北陸 中部 南東北	関西 北 東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
B	アイス20個	6,400	6,500	6,610	6,710	6,810	7,020
C	チーズ	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
D	アイス／ケーキ2種	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
E	ムース	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
F	ケーキ	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
G	カレー／チーズ	5,000	5,100	5,210	5,310	5,410	5,620
H	ケーキ2種	3,230	3,330	3,440	3,540	3,640	3,850
I	カレー	3,580	3,680	3,790	3,890	3,990	4,200
J	チーズ／ソーセージ	5,730	5,830	5,940	6,040	6,140	6,350

内容の詳細をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

＊チラシの価格には送料が含まれていません。送料込みの価格は、上記の表をご参考にしてください。

La Forêt, C'est la Vie ! Vol. 33

編集　岡本敏樹　菅川拓也　竹越久美子　佐藤裕美　町慶彦／発行　菅川拓也／発行所　緑のサヘル／印刷　社会福祉法人　東京コロニー

〒101－0035　東京都千代田区神田紺屋町16番地 田澤三ビル3F　TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041

HomePage : http://www.jca.apc.org/~sahel/　E-mail : sahel@jca.apc.org